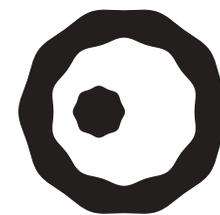
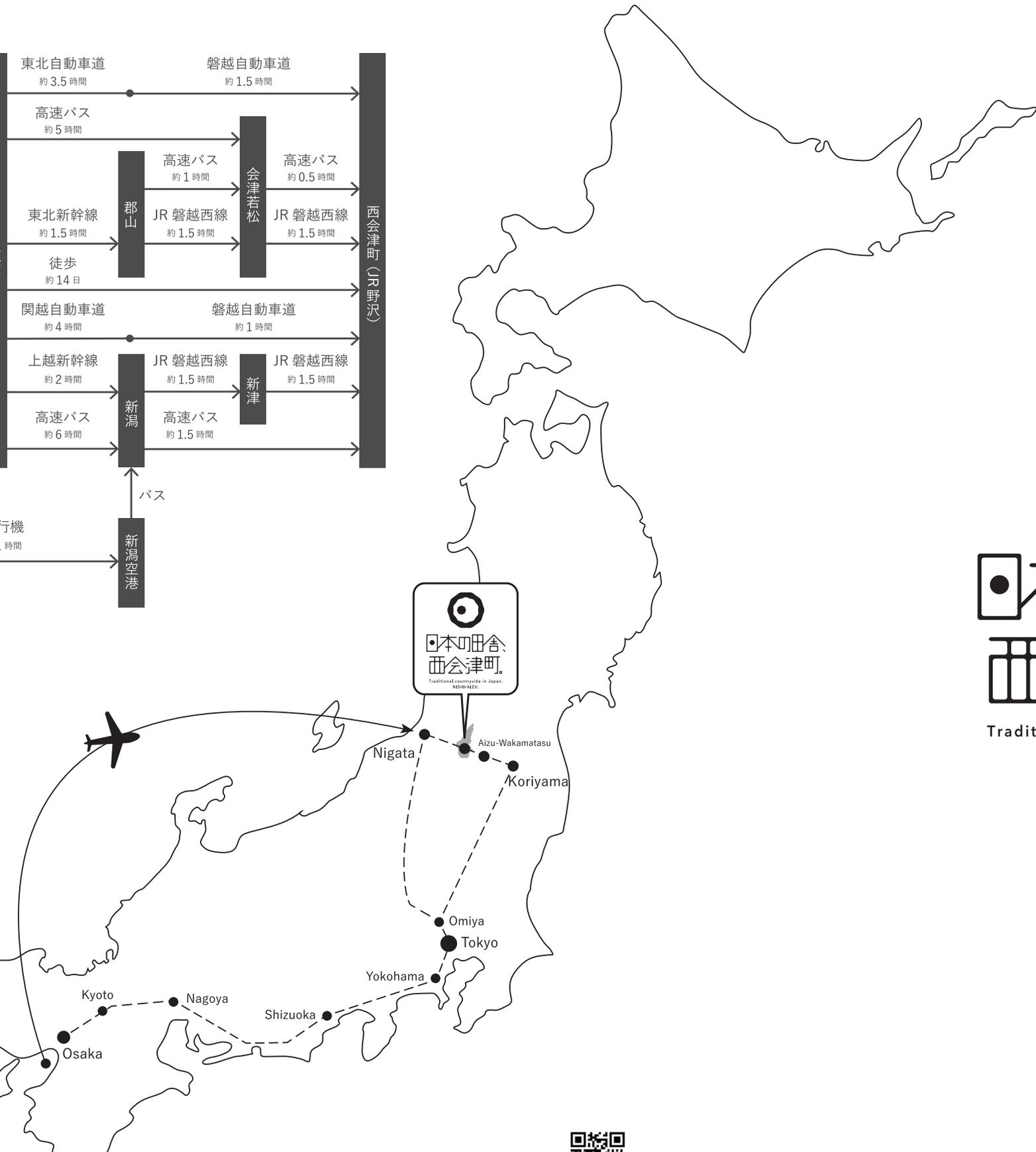
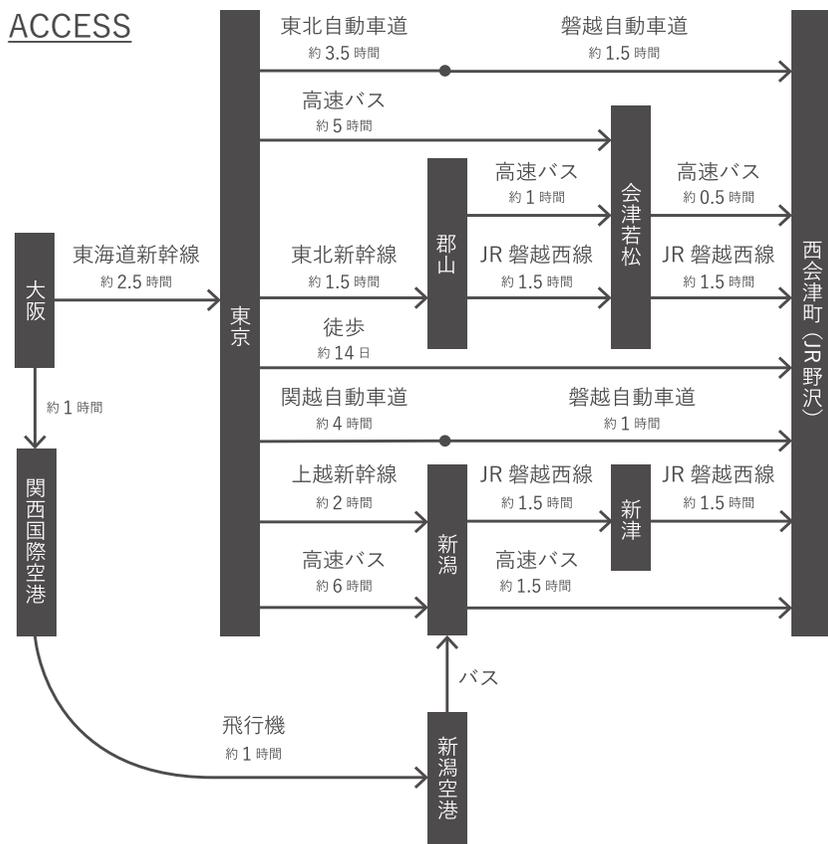


ACCESS



日本の田舎、
西会津町。

Traditional countryside in Japan,
NISHI-AIZU.





日本の田舎、
西会津町。

Traditional countryside in Japan,
NISHI-AIZU.

の

10のキーワード p.3

語る p.5

雲海 p.7

きおく p.9

風物詩 p.13

めぐる p.15

郷土食 p.17

集落の暮らし p.19

新しい暮らし p.21

米 p.25

米のつくり手 p.29

米プロダクト p.31

酒 p.33

ミネラル野菜 p.35

生産者 p.37

若手農家 p.39

おかあさんたち p.41

手しごと p.43

故くて新しい p.47

宿 p.49

町政65年 p.53

冊子を手にとってくださり、ありがとうございます。西会津町長の薄友喜です。西会津は福島県の北西部に位置し、日本の春夏秋冬を彩る美しい自然に恵まれたゆたかな風土を誇るまちです。ここに写っている縄文土器、立派でしょう。このような土器が町内でたくさん出土しており、縄文時代から栄えていた歴史があるんです。

このブックは、町の地勢や歴史文化、観光、地場産品など、西会津の魅力がこの1冊で分かるようにまとめられています。西会津を知る人も、初めて知った方も、ぜひこのブックを読みすすめながら、わたしたちの町の風景や人、暮らしを思い浮かべていただければ幸いです。そしてぜひいつか、「日本の田舎、西会津町」へお越しください。その時にも、このブックはあなたのお役に立てるはずです。

西会津町長 薄 友喜



日本の田舎、
西会津町。

Traditional countryside in Japan,
NISHI-AIZU.

10 を語る
のキーワード



1. 縄文時代から
栄えた町



2. 日本の原風景



3. 日常にある
美しさ



4. 水墨画の
ような雪景色



5. おいしいお米



6. 人の支え合い



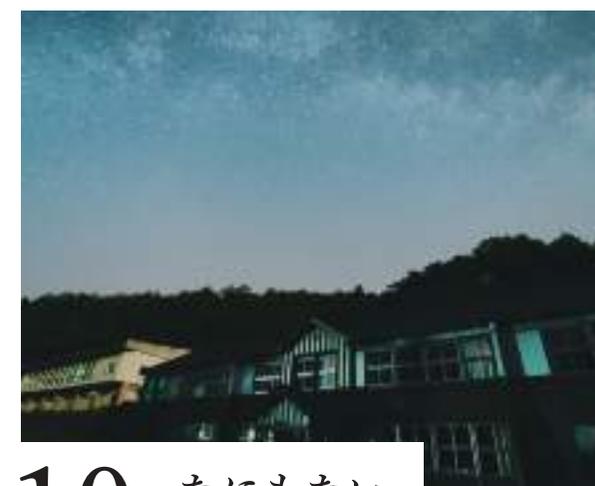
7. 故くて新しい暮らし



8. 雲海や霧が幻想的



9. 都会と田舎が行き交う



10. なんにもない、
でも、なんでもある！

薄友喜 西会津町長

西会津町出身
2017年より現職

西会津町は『「日本の田舎」の継承者として、古き日本の姿を守り、縄文文化、農村文化を伝える町。』として広く知っていただくため、様々な暮らしのシーンをPRする220本の動画集や、移住に関わる情報などをまとめたポータルサイト「日本の田舎、西会津町。」を運営しています。今回は、プロジェクトの立ち上げ人であるディレクター山科氏と、西会津町長の対談をお届けします。

日本の原風景が残る、 日本を代表する田舎。

山科：「日本の田舎、西会津町。」というブランドコンセプトを掲げ、プロモーションを始めたのは2017年のことでした。初めてこの町を訪れた時、野沢駅に着くなり「こんなに周りに何も無い田舎の駅って本当にあるんだ…」と感じたのを今もよく覚えています(笑)。どんな町なんだろうと、町の魅力を訪ねまわりながらも、著名な観光地や突出した見どころがあるわけではないと感じました。それは決してネガティブな印象ではなく、「まさにこれこそ、日本の田舎だ」と。私は東京出身でして、都会から見た理想の田舎の姿が、西会津

には詰まっていた。美しい田園風景、その中にぼつんと佇む昔ながらの民家。特に、当時はインバウンド(訪日外国人旅行者)の需要も見込んでいたので、「日本・田舎」で検索した時に、西会津町がヒットすればいいなと思って。それで思い切って「西会津は日本を代表する田舎だ」と言い切ってしまうかと考えて生まれたのが、「日本の田舎、西会津町。」というコンセプトです。

町長：私達にとっては、この町に長く暮らしているから当たり前景色なんですよ。でも山科さんに「西会津は日本を代表する田舎だ」と言ってもらって、あらためて西会津の風景や暮らしを見つめてみた時に「なるほど、確かな」と思う反面、ここまで言い切れる山科さんの発想にはハッとさせられました。

山科：地元の人たちにとっては当たり前映っていても、私のような都会から訪れた人間にしてみれば、日本の原風景が残っていることがいちばんの価値だと思います。

町長：私は「人柄」や「人付き合い」がこの町の魅力のひとつだと思いますね。「会津三泣き」と言って、解釈は諸説あるようなんだけど、要は外から訪れた人が「会津人の人情深さにふれて泣く」というものなんです。面倒見がいい、懐が深いというのが、この町の地域性じゃないかなってね。

都会と田舎を繋ぐ。 人が人を呼ぶ町へ。

山科：コンセプト文の一部に、「西会津町は、縄文時代から続く日本らしさを守りながら、田舎と都会を繋ぎます」というメッセージが添えてあるんですけど。これは、都会と田舎のどっちが好きかという話ではなくて、都会と田舎がお互いに支えあうような共存関係でありたいと思っています。コロナ禍を経験して、多拠点居住や、田舎で暮らしながらリモートワークをするといったライフスタイルも広がっていますよね。こんなふうに、都会と田舎を流動的に行き来するような社会になれば良いなという想いが、メッセージに込められています。

町長：このメッセージを掲げてプロモーションするようになってから、特に若い人たちが町に訪れてくれるようになりました。数年前は想像もしていなかったくらい、地域おこし協力隊をはじめ、大学生、民間企業の方たちなど、たくさんの方が町に関わって活動してくれているんです。

山科：嬉しいお話ですね。当初、思い描いていた理想の町の姿に近づいているなど感じます。ちなみに町長、このロゴマークは何を意味しているのか分かりますか？よく「目玉みたい」って言われるんですけど(笑)。

「日本の田舎、西会津町。」

ブランドコンセプト設計

山科 考穂 氏

クリエイティブプロデューサー
株式会社カモフラージュ代表

町長：う〜ん、福島県内における西会津の位置かな？

山科：それも間違いではないのですが、実はこれ、西会津の風景をロゴ化しているんです。西会津を真上から見下ろした風景だと思ってください。黒丸(●)が山で、山の周りに雲海が広がっている様子。周りの円がぐにゃぐにゃした線になっているのは、雲を表現しているからなんです。

町長：そうだったのか！でもなぜ雲海の風景をロゴに？

山科：西会津って、よく雲海が出ますよね。その風景が本当にきれいで、幻想的だなんて。それと「日本の田舎」と表現しているので、日本の国旗を連想させるデザインにしました。「日本の田舎、西会津町。」のプロモーションは、町外の方を対象としつつも、西会津の地元の方にもメッセージが届けば嬉しいなという思いがあります。当たり前すぎて気がついていない町の魅力を、再発見してもらえたらな。

町長：まさに「日本の田舎、西会津町。」のプロジェクトが立ち上がったことで、地元の人たちの動きにもはずみがついたと思います。町外から訪れる人が増えたり、地域活動がより活発になったことで、やる気を後押ししてくれたというかね。この先も西会津を象徴づけるブランドコンセプトとして、人が人を呼ぶ賑わいある町づくりを進めていきたいです。



の 雲海

山科：実はこれ、西会津の風景をロゴ化しているんです。西会津を真上から見下ろした風景だと思ってください。黒丸（●）が山で、山の周りに雲海が広がっている様子。周りの円がぐにゃぐにゃした線になっているのは、雲を表現しているからなんです。

※ p.6 より抜粋





日本の田舎、
西会津町。
Traditional countryside in Japan,
NISHI-AIZU.

の きおく

約 5000 年前



繁栄を象徴する縄文土器

縄文時代中期から後期にかけてのものと思われる火炎系土器が町内の上小島遺跡、芝草・小屋田遺跡から多数出土。高度で複雑な造りの土器は、当時の暮らしの繁栄を思わせます。福島県指定文化財。

縄文土器写真：芝草・小屋田遺跡出土品 撮影 小川忠博

約 1200 年前



会津の西方浄土の霊場 「鳥追観音如法寺」

仏都会津の祖・徳一大師が 807 年に会津の西方浄土として開創した鳥追観音如法寺。仁王門は福島県の文化財に指定されています。



山の神・水の神「大山祇神社」

「3 年続けてお詣りすれば、一生に一度はなじよな願いも聞きなされる山の神様」として今も多くの方々が集う大山祇神社。勧請は 778 年といわれています。

約 700 年前



「円満寺観音堂」

室町期の建立とされる国指定重要文化財。入母屋茅葺の屋根と本格的な三方四面唐様建築のお堂で、昔から子守観音として親しまれています。

約 500 年前



500 年以上守り継ぐ信仰 「岩屋虚空蔵尊」

1511 年に造立されたといわれている「岩屋虚空蔵尊」。西会津の奥地にある「出戸(いでと)」という集落にあり、毎年 9 月には祭礼が開かれます。集落の人によって 500 年以上守り継がれている伝統文化です。

5000 年前、 西会津は 大都会だった!?

縄文時代には、阿賀川流域である西会津の地には、日本海側（北陸）と太平洋側（東北・関東）の文化を受けた縄文中期～後期の縄文文化が発達しました。西会津町では「会津タイプ」と呼ばれる独特の火炎土器や王冠型土器が出土していますが、これらが発掘された遺跡は相当大規模なものであったと推測されており、当時、高度な縄文文化が栄えていたことがうかがえます。こうした背景から察するに、西会津は文化の集合点であり、大都会だったのかも!?

背景写真：戸中周辺の阿賀川・須刈岳（手前）と飯豊連峰（背景）・高陽山（飯豊連峰手前）
撮影：青津京介

西会津町歴史文化構想
town.nishiaizu.fukushima.jp/soshiki/10/5415.html





日本の田舎、
西会津町。
Traditional countryside in Japan,
NISHI-AIZU.

の きおく

約 400 年前



鶴ヶ城城主と 西会津のかかわり

若松城（鶴ヶ城）の改築や、城下町の整備など近代会津の礎を築いた蒲生氏郷。上野尻地区にある西光寺を訪れて休息をとった縁で深く帰依するようになり、本尊となる阿弥陀如来像を寄進しています。氏郷の死後、肖像画が西光寺に贈られ、現在は国の重要文化財に指定されています。



会津の発展を支えた要衝 「野沢宿」

西会津町は、越後へ続く会津の玄関口であり、多くの人や物が行き交う拠点として栄えてきました。特に「野沢宿」は、江戸時代に整備された越後街道の三大宿場町のひとつに数えられ、当時の会津藩の行政・経済の要衝であったことがうかがえます。上と背景の写真は明治20年頃の野沢宿の様子。

約 150 年前

研幾堂と門下生たち



渡部思齋

明治の松下村塾といわれた学塾「研幾堂」の創始者。



渡部鼎

野口英世の手を手術し、英世が医師を志すきっかけをつくった恩師。



野澤雞一

山本覚馬の日本 建の建白書「管見」を口述筆記した法律家。



石川暎作

アダム・スミス『富国論』の翻訳者。渡部鼎と共に婦人束髪運動の先駆者。



山口千代作

自由民権運動の指導者。自由党会津部創立、福島自由新聞の創立。



小島忠八

自由民権運動の闘士。山口千代作と共に反対闘争の先頭に立つ。

「学者の西会津」 と云われたわけ

幕末になると、東北の松下村塾とまでいわれた学塾「研幾堂」が野沢に開設され、歴史に名を刻む多くの門下生を輩出しました。西会津には研幾堂の創始者である渡部思齋をはじめ、多くの偉人が誕生しています。

※研幾堂とは・・・渡部思齋が會津藩校日新館・医学寮を修了し、野沢原町に1866年、法政・経済・文学・医学の四科を設け200名以上もの近郷子弟の教育にあたった私塾。

背景写真：明治20年頃の野沢宿
当時のポストカードより



日本の田舎、
西会津町。
Traditional countryside in Japan,
NISHI-AIZU.

の 風物詩

2月 雪国まつり

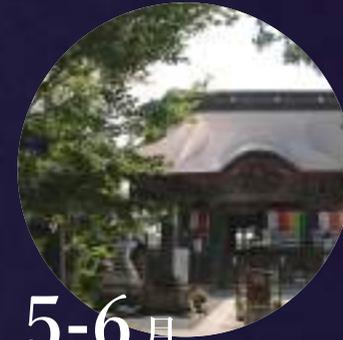
寒さと雪が一番厳しい真冬に開催される恒例のおまつり。雪に親しみ、雪とあそぶ！雪国だからこそ実現できるイベントです。見どころは「歳の神（さいのかみ）」。しめ飾りや神棚のお供え物をお焚き上げて歳神様を天にお送りし、一年の五穀豊穰や無病息災を願う会津地方の伝統行事です。見上げるほど高く、ごうごうと燃え盛る様子は迫力満点！この火にあたると、病気にならないといわれています。また、この火で餅やスルメを焼いたものを家に持ち帰り、家族で分けて食べると、その年は家内安全、無病息災で過ごすことができると伝えられています。



にしあいづ観光交流協会
nishiaizu-kanko.org/event-2



5月
西会津なつかし
CARショー



5-6月
鳥追観音若葉祭



6月
大山まつり



6月
安座おとめゆりまつり



春or秋
にぎわいまつり



9月
出戸岩屋まつり



9月
野沢祭礼



10月
西会津国際芸術村公募展



10or11月
西会津ふるさとまつり



11月
そばまつり



11月
鳥追観音紅葉祭



1月
野沢初市



日本の田舎、
西会津町。
Traditional countryside in Japan,
NISHI-AIZU.

を めぐる

自然にダイブする、 トレイル旅。

大山祇神社 霊地トレッキング

鮮やかに染まった葉っぱがきらきらと光り、そよ風がそっと頬をなでる。聴こえてくるのは、鳥の声や水の流れる音。ゆっくり空気を吸い込んで、思いっきり背伸びしたくなる。人里からひと足離れて森林を歩いていると、心がすっきりと洗われるような清々しい気持ちになります。西会津には、こんなふうにトレイルを楽しめるスポットがいっぱい。初めての方は、大山祇神社の御本社までつながる参道を歩いてみてはいかがでしょうか。道中に「木の根坂」と呼ばれる遊歩道があり、樹齢400年以上の木々が這う道は「ふくしま遊歩道50選」にも選ばれています。

大山祇神社
ooyamazumi.net



西会津ぐるっと山ネットワーク
nishiaizu-yamanetwork.com



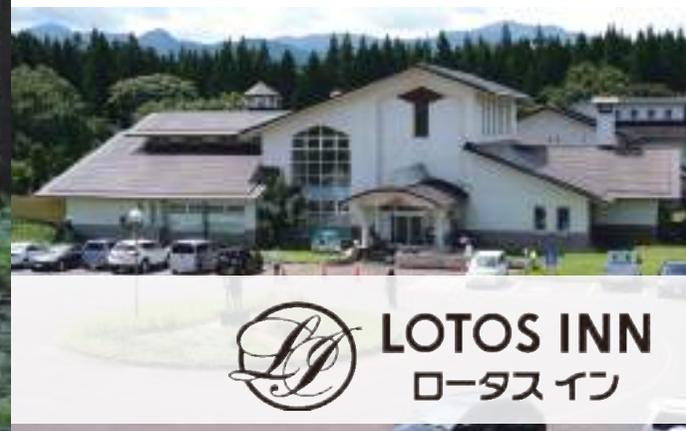
▲ 西会津の北方、奥川郷の塩集落にある滝は絶好の遊び場。



NTN 西会津トレイルネットワーク
nishiaizu-trail.com



▲ 飯豊連峰を眺めながら自転車で走れる道。名付けて「飯豊ドライブウェイ」



LOTOS INN
ロータスイ



▲ お風呂のあとのお食事 & 宿泊もおすすめ。

▼ SPA 気分で入れる温泉はなんと源泉かけ流し。

源泉かけ流し温泉と サウナで、ぷは〜っ！

アクティビティを満喫したら、ぜひ「ロータスイ」へ。源泉かけ流しの温泉とサウナが楽しめる健康保養施設です。お湯は、塩っぱい味がする天然ミネラル温泉。湯冷めせず、身体の芯からぽかぽかと温まります。さらにロータスイのサウナは、町外からサウナ通が集うほどの人気っぷり。サウナの温度が高く、水風呂は冷たいので「このサウナが一番とどのう」そうですよ。身体の疲れがじわ〜と溶けていくスパ体験をどうぞ。お風呂の後は、隣接する「さゆりオートパーク」でBBQを楽しんで。キャンプサイトとコテージがあり、お好みのスタイルで滞在できます。夏にはホテルが飛び交って、幻想的なひとときに。都会の喧騒から離れて、夜空を見上げながら飲む一杯は至福の時間になりそう。

ロータスイ & さゆりオートパーク
lotosinn.com



▼ オートキャンプ場やコテージも併設





日本の田舎、
西会津町。

Traditional countryside in Japan,
NISHIAIZU.

の 郷土食



つるっと喉ごし、
風味ゆたかな
十割蕎麦

秋になると、可憐でまっしろな蕎麦の花が、町のいたる所で咲き誇る。黄金に輝く稲穂とのコントラストは見事で、カメラのシャッターを押さずにはいられません。西会津は、蕎麦の生産が盛ん。昔から集落ごとに蕎麦の収穫祭が開かれており、蕎麦打ち名人がたくさんいます。西会津で蕎麦といえば、「十割蕎麦」が日常的。初めて食べた人の多くは、そのなめらかさと喉ごしに驚きます。ハリと透明感のある麺、歯を押し返すほどの弾力。でも、つなぎはっさい無し。この驚き、あなたの舌でお試しく下さいね。



十割蕎麦が味わえるお店はこちら
nishiaizu-kanko.org/gurume



肥沃な土地と豊かな水に恵まれ、昼夜の寒暖差が大きいため良質な米・野菜・きのこなどの山の幸が収穫できる西会津町。その一方で、内陸部に位置するこの町は海から遠く、昔は塩や海産物を入手するのが困難で、棒たら・身欠きにしんなどの乾物が貴重なたんぱく源として扱われていました。このような環境から、保存のきく郷土料理が次々に生まれ、にしんの山椒漬け、棒たら煮、ホタテの貝柱から出汁をとってつくる「こづゆ」、山菜料理などは、今も家庭の食卓にならびます。

郷土料理レシピ集「西会津の郷土料理」
[town.nishiaizu.fukushima.jp/
uploaded/attachment/7291.pdf](http://town.nishiaizu.fukushima.jp/uploaded/attachment/7291.pdf)



ミネラル野菜のうまみたっぷり 味噌ラーメン

西会津といえば、味噌ラーメン。コク深い味噌に、中太のちぢれ麺、その上にはお野菜がたっぷり。野菜は、西会津産の「ミネラル野菜」を使用。ミネラル野菜とは、ミネラル豊富な土づくりのもと、地元農家さんの手によって栽培される野菜のことです。野菜の旨み、甘みが溶け出した味噌スープは、手が止まらないおいしさ。特に、寒い冬場にいただく一杯は、心にじんわり沁みわたります。



味噌ラーメンが味わえるお店はこちら
nishiaizu-kanko.org/gurume



山の暮らしに育まれた食文化





日本の田舎、
西会津町。
Traditional countryside in Japan,
NISHI-AIZU.

の 集落の暮らし



祭事と風習

里山の暮らしと密接な関係にある集落の祭事。年中行事などの四季の農作業と密接な関わりのある風習や、集落ごとに祀られている鎮守様などのお祭りもあります。このような数百年続けられてきた土着の文化は、人口の減少によって今、少しずつ消滅しつつあります。



移動スーパー

自家用車を持たずに暮らすお年寄りも多い山間部にとって、地域密着の移動スーパーは集落のライフラインです。



人足作業

集落の暮らしには欠かせないのが、「人足（にんそく）」。自治区ごとに行う協働作業のことで、稲作が中心の山間部の集落では、数kmにもわたる堰上げ（水路の落ち葉あげ）や、水利設備の管理、集落内の道の草刈りや舗装など、自分たちが暮らす環境を自分たちの手で整えることが暮らしの基本となっています。一見するととても大変な作業ですが、逆にこれが地域と深くつながる機会でもあり、近年、都市部では珍しい人足作業を体験したい若者達が、自主的に集まって来ることも増えてきています。



集会所

各地区の集会所はみんなのよりどころ。人足作業の後には必ず慰労会をおこない、親睦と交流をはかります。

菅笠

ちよっぺ笠と呼ぶ人も。集落に行くときよく見かけます。両手が使えて、雨除け・雪除け・目除けになる万能アイテムなので、農業者には根強い人気。



雪と暮らし

西会津町に暮らす人々にとって、雪は自然の恵みであると同時に、脅威でもあります。ほとんどの家では、冬が近づくとき雪で家の窓などが割れないよう開口部に「雪囲い」をして冬に備えます。1月に入ると積雪も急に増え、除雪をする頻度が多くなります。特に屋根雪下ろしや、除雪車が通らない狭い道や人の歩く道などの除雪はなかなかハードです。近年では、逆転の発想でこの除雪をエクササイズと捉えて楽しもう、という「ジョセササイズ」が西会津町で生まれ、ツアーなども行われています。



日本ジョセササイズ協会
jjxa.mystrickingly.com



かんじき

昔はよく手作りされていたかんじき。最近ではホームセンターで購入できます。これを履くのと履かないのでは、雪上歩行が雲泥の差！



の 新しい 暮らし

やまみ靴製作所
 web yamaami.com
 sns instagram.com/yamaamikaban/



やまみ靴製作所
 片岡 美菜 さん

碧音 -aone-
 武藤 美穂 さん

碧音 -aone-
 web aone-earth-sound.stores.jp
 sns instagram.com/_aone_/



理想にフィットした場所だった。

靴職人として独立したい。その夢を、西会津町で実現できました。この町に来るまでに、全国各地を見て回っていたんです。靴工房を立ち上げるなら、自然ゆたかな田舎がいい。そうやって拠点を探していたときに、この町に出会いました。西会津町は見渡すかぎり山々が広がっていて、いつ見ても「きれいだなあ」と感動するんです。それに、ふるくから受け継がれてきた手仕事や文化も残っている。そうした魅力が、この町を選んだ理由です。また、「この町でこんなことをしたい！」という意思を持つ若者が集まっているのも、魅力に感じました。

町の素材を活かしたものづくりを。

2020年8月に西会津町に移住し、空き家を改修して「やまみ靴製作所」をオープンしました。「起業型地域おこし協力隊」の制度によって経済面も生活面もサポートしてもらえ環境が整っているため、自分のやりたいことにとことん励むことができます。今は特に、鳥獣害対策で捕獲されたシカやイノシシなどの皮、伝統の「出ヶ原和紙」、地域の人から譲ってもらった着物や木綿などの古布を使い、西会津町ならではの素材を活かした商品の企画や試作に打ち込んでいます。また、小物づくりワークショップを開いたり、工房の設備を町内の皆さんに貸し出したりと、交流も積極的に行っています。「美菜さん野菜いる？」って、お野菜を持って工房を訪ねてくれる方もいて、とても居心地がいいんです。西会津町は田舎でありながら、人の行き交いや新しいことに次々にチャレンジする文化が活発な場所。靴工房の運営も、暮らしの面でも、この町の未来にわくわくしています。



食の制限がある人に、安心でおいしい食を届けたい。

知人をきっかけに西会津町を知り、自然ゆたかな地域で子育てをしたいという想いから、私と夫、娘の3人で2020年に移り住みました。この町を訪れた時の、「自然がきれいだな〜！」という印象と、地域の方たちのあたたかさが心に残っています。今は、自宅の一部をリノベーションし、植物性（卵・乳製品不使用）のおやつを製造・販売する「碧音 -aone-」を運営しています。きっかけは、娘が生まれつき食の制限があったこと。はじめはわが子のためにつくり始めたのですが、近所でゲストハウスを営むご夫婦に声をかけていただき、ポップアップショップを開かせていただくことになりました。そうしたご縁から、娘のためだけでなく、食に制限があるすべての方たちに「おいしくて、安心できるおやつを届けたい」という想いがふくらみ、2021年に「合同会社碧音 aone」を設立。2022年に工房・店舗を開き、本格的に活動することになりました。



地域の農業や、食の多様性にふれるきっかけに。

「碧音 -aone-」では、信頼できる農家さんが手がけた野菜やフルーツ、米粉、酒粕、スペルト小麦などを使い、マフィン、ブラウニーをつくっています。卵・乳製品不使用なのは、食の制限がある人にも安心して食べてほしいから。そして何よりも「おいしい！」を大切に、栄養バランスや見た目にも心をくばっています。例えば、えごまのブラウニーは、近所の農家さんが育てているえごまを使い、プチプチ食感が楽しいおやつに仕上げました。真っ赤なルバーブのマフィン、鮮やかな彩りとほのかな酸味が楽しめます。碧音のおやつを通して、地域の農業や食の多様性にふれるきっかけになれば嬉しいですね。店舗販売だけでなく、県内外のマルシェに出店させていただいたり、町の保育園におやつをご提供したりと、碧音のおやつを手にとりいただける場面が広がってきました。「おいしい」からはじまるカラフルな笑顔あふれる世界へ」という想いを胸に、この先も活動していきたいです。

ようこそ。おかえり。 日本の田舎へ。

このまちに暮らしていなくても、とおく離れていても、
西会津をそばに感じることができる。
それが「ふるさと応援寄附金（ふるさと納税）」です。

西会津の味、暮らしの品。

「なつかしい」と感じる方もいれば、

「新しい」と思われる方もいるかもしれません。

このブックには、西会津からお届けしているふるさと納税の返礼品や、
その背景にある生産者、ものづくりのストーリーを綴っています。

ふるさと納税でご支援してくださった方の寄附金、

その想いは、このまちの子育て・地域活性・健康づくり

自然環境保全などに生かされています。

ありがとうございます。

ぜひいつか、わたしたちのまち、西会津へおいでください。

その時は「おかえりなさい」の気持ちで、

西会津のすべてがあなたをお出迎えます。



ふるさと応援寄附金について
town.nishiaizu.fukushima.jp/soshiki/3/5683.html



日本の田舎、西会津町。
inaka.nishi-aizu.jp

背景写真：早朝の奥川郷 中ノ沢集落
撮影：青津京介



の
米

西会津米

飯豊山麓之逸品

グルメ著名人もうなる米。



五ツ星お米マイスター
西島 豊造 さん

「“会津の米”ではなく『西会津の米』」

甘く優しく広がる香り、形よく均等に膨らみ、滑らかで煌びやかなツヤ、一粒ひと粒が粒立ち主張し米粒感が感じながらも柔らかさを伴う粘りもあり、口に含むと直ぐに甘味が口の中いっぱいになり、いつまでも旨味が残る。さすがの米処である西会津、その実力の高さは貫禄すらあると思う。当然冷めても美味しいので、お弁当にもピッタリ。これは山々の清らかな水、雪国ならではの寒暖差、農家さんたちの確かな技術と、きめ細かな栽培管理によるもの。是非とも体感してほしいと思う。



ブランナー・食ベログ
フォロワー数日本 NO.1
川井 潤 さん

「主張はあるのに、料理の邪魔をしない。」

まず白米だけいただいて感じたのは、ほどよいあまみと粘り。クセがないから、料理の邪魔をしない。おもしろいのが、やさしいだけでなくちゃんと米が主役になれる力強さを持っているんです。一粒ひと粒のチカラが丁寧に口のなかで感じられる。中途半端な味付けのおかずと合わせてしまうと、お米の主張がぼやけてしまう気がするので、お米が引き立つメリハリをきかせたメニューが良さそうです。



「旅するおむすび屋」
菅本香菜さん

「おむすびに合うお米、具材がいっぱい！」

西会津にはお味噌や、椎茸、にしんの山椒漬けなど、おむすびに合う具材がたくさんあります。地元のお母さんから「おむすびにお味噌を塗って焼くんだよ」と教えてもらったことがあるのですが、東北らしいおむすびだなと感じました。具材とあわせてもおいしいのですが、お米そのものが主役になれるのでシンプルに塩むすびにすると、お米本来のおいしさがより引き立ちます。

昼夜の寒暖差が生むクオリティ 西会津米は、あま美味しい。

炊きあがりの湯気とともに、ふわっと香り立つやわらかい土のにおい。ひと口運べば違いが分かる、歯を押し返すほどのもちり感と、噛むほどにひろがるあまみ。「西会津米」は、米農家はもちろん、町民みんなが自信を持って「西会津は米がうめえ」と自慢するほどのお米です。



西会津米がおいしい7つの理由

01 お米でお米が食べられる

西会津米はおかずがいらないくらいの主役級うまさ。もはやお米がおかずになるくらい。「米で米が食べられる」という町民も。

02 山々がもたらす豊かな清流

見渡すかぎり、雄大な山々にぐるりと囲まれた西会津町。その山から流れてくる水は、山の豊かな自然の恩恵をたっぷりと受け清く、冷たく、お米のすこやかな成長を促します。

03 昼夜で15°C以上の寒暖差

日中は35°Cを超える暑さとなり、夜間は25°Cを下回る。昼夜の寒暖差は15°C以上の日がほとんど。西会津米の強いあまみは、この厳しい気候あってこそ。

04 日本を代表する米ブランド

数々あるお米のトップブランドに引けを取らない香り、あまみ、のど越し、粘り。食べ飽きない上品な味わいは、会津産というよりも西会津米ならではの。

05 コツコツ、まじめな農家さん

山間部にある田んぼは空気が湿気やすく、天気が変わりやすいため手入れが難しい。厳しい環境下でもおいしさが変わらないのは農家さんの技術と性格の表れ。

06 多様性に富んだ自然環境

西会津にはいきものがたくさん。草木、ホタル、トンボ、クマ、ニホンカモシカなど。農家さんにとっては困ることもあるけど、それだけ自然豊かな証拠。

07 持続可能な農業

農業は、この町の土壌そのもの。この先もながく西会津の自然環境がすこやかに保たれるように、環境に配慮した持続可能な農業を心がけています。

この町で栽培されている西会津米の多くが「コシヒカリ」。実は同じコシヒカリでも、産地や生産者の栽培方法によって味わいが違うんです。それぞれのコシヒカリが育まれた背景を生産者の声とともにご紹介します。

橋谷田ファーム
hashiyadafarm.jp



生命力あふれる「雑草」のような稲を。

わたしたちが育てているのは、自然にも身体にも負荷をかけない米。農薬を使わずに有機質肥料だけを使った「JAS 認定有機栽培米」や、農薬と化学肥料を減らした「特別栽培米」を手がけ、世界的な農業認証「グローバルGAP」を取得しています。雑草や病気への対策に苦労はありますが、薬剤に頼らず自然のシステムで育つ稲は、自分で病気にならないように免疫力をつけるので、悪天候が続いても影響を受けにくいんです。自然に委ねてみると、お米はこんなにも生命力や栄養価にあふれ、丈夫に育つ。それをわたしは「雑草のような稲」と呼んでいます。人間の都合ではなく、稲目線、自然目線に立った持続可能な農業を実践し、良質な土を後世に残していきたいです。



橋谷田ファーム代表
橋谷田 淳 さん

集落の人たちと耕し、守り継ぐ、ホタルの里米。

この町で生まれ育ち、38歳のときに農業を始めました。わたしが米づくりを、販売は妻が立ち上げた加工所「ハウスキッチン」で行い、夫婦二人三脚でお客様へお米をお届けしています。わたしが住んでいる「牛尾集落」は、家が12軒ほど。山々に囲まれ、田んぼはそこまで広くありません。そんな小さい集落だからこそ近所どうしの交流が深く、みんなで支え合いながら暮らしてきました。農業のスタイルも、集落の農家たちと協業で米づくりをする「集落営農」。「牛尾ライスセンター」という農業法人を集落で立ち上げて、米の栽培や機械設備など協働で管理し、品質の高い米を守り継いでいます。わたしたちの集落を象徴する米、それが「ホタルの里米」です。



牛尾ライスセンター理事
ホタルの里米 目黒 輝夫 さん

ミネラルたっぷりの「げんき米」

健康でおいしいお米は、肥沃な土壌づくりが大事。その土を育てているのが、「西会津げんき米」の一番の特徴である「ミネラル」です。ミネラルを含んだ「げんき米スペシャル」というオリジナルの肥料を使い、田んぼにミネラルを補給することで元気な稲が育ちます。粒が大きく、日持ちしやすい米で、西会津町の小学校・中学校の給食で子どもたちに食べてもらっています。「西会津げんき米」をつくっているのは、町内の農家59名で構成されている「西会津ミネラル有機栽培米研究会」。生産者や産地によって味や品質のばらつきが出ないように、土づくりの方法から栽培管理、出荷の条件など、細かに定められたマニュアルをもとに丁寧な米づくりを心がけています。



西会津ミネラル有機栽培米研究会代表
小原 利道 さん

土壌の微生物が育む“すなお”な米。

食べものは、その土地の風土からつくられます。昔からある言葉で「景観10年・風景100年・風土1000年」と言ってね。風土は、はるか昔からあり続ける自然環境から育まれるもので、西会津町は季節によって昼夜で15°C以上の寒暖差があり、山々に囲まれた盆地特有の風がある。それに畑や田んぼの中には、何千年という年月を生きている土着の微生物がいて、バランスのとれた土壌を育ててくれるんです。そこでわたしは微生物たちのはたらきに着目し、稲の生長をサポートする土壌づくりのための微生物資材「美農法バイオ」を開発しました。その土地由来の微生物のはたらきを促し、「すなおな米」を育てる。それが、わたしと息子の農業に対する信念です。



黒米味噌本舗
鈴木二子・信昭 さん

集落のベテラン農家が手がける、祝米。

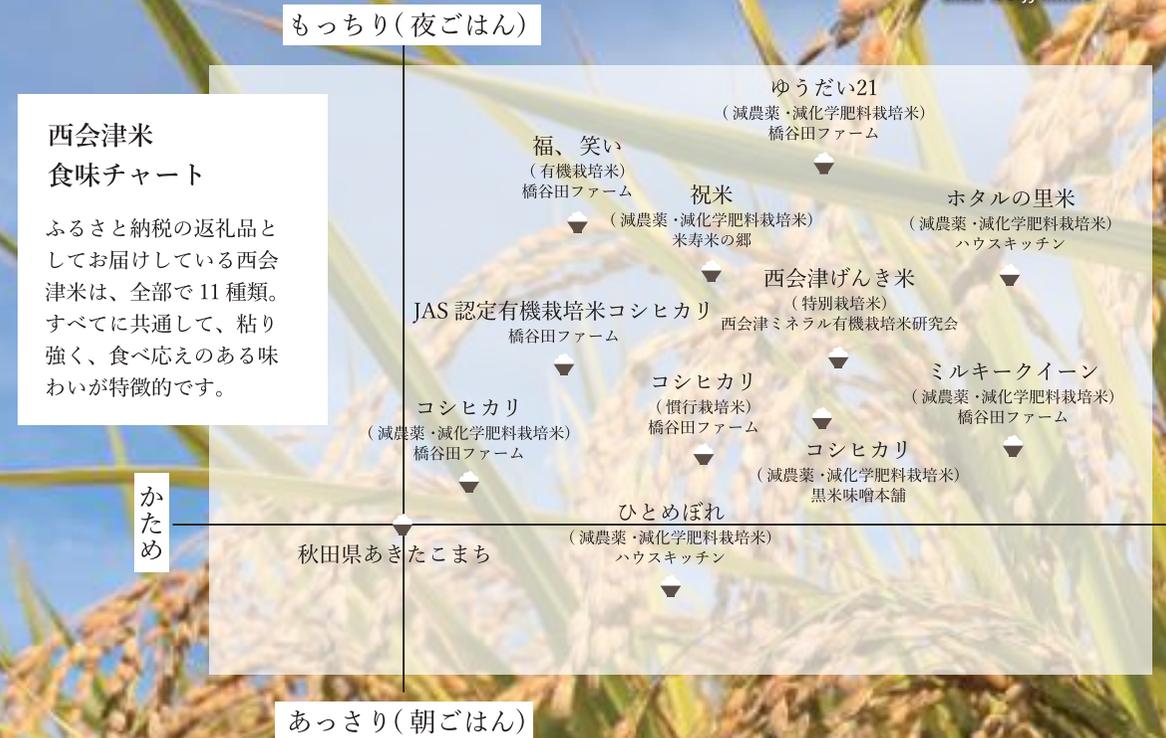
「米寿米の郷」とは、西会津町の山浦集落に暮らしている60代・70代・80代の農家によって結成された団体です。60代の農家が手がけたお米を「還暦米」、70代のお米を「喜寿米」、80代のお米を「米寿米」と名付け、総じて「祝米（いわいまい）」としてお届けしています。山浦集落があるのは山深いエリアで、昼夜の寒暖差が大きく、稲刈り後は「稲架掛け（はせかけ）」という昔ながらの方法で自然乾燥させる農家もいて、お米がゆっくりと熟成されてうまみがぎゅっと詰まっています。近年は高齢化が加速し、農家の担い手不足も課題です。皆さんが祝米を食べてくれること、ふるさと納税で応援して下さることが、集落の里山保全や私たちの原動力にもなります。「米づくりを体験してみたい」「手伝ってみたい」という方も大歓迎です！



奥川 山浦集落
米寿米の郷のみなさん



米寿米の郷
aizu-beijyu.info





西会津の棚田のお米をつかった 米麴の甘酒をベースにつくった ヴィーガンアイス

「日本の田舎、西会津町」を象徴する風景のひとつに「棚田」があります。その棚田で栽培された西会津米から甘酒を仕込み、アイスができあがりました。乳製品・卵不使用なのに濃厚な味わいで、お米本来のやさしい甘さに癒されます。アレルギーをお持ちの方や、ヴィーガンの方にもおすすめです。



日本の田舎 西会津町 の 米プロダクト

YSK × 西会津 NATURAL SOAP

西会津町の米農家「橋谷田ファーム」のJAS認定有機栽培米の米ぬかと、会津産のクロモジオイルから生まれた100%自然由来成分のせっけん。石油系原料、石油系合成界面活性剤、安定剤などを一切使わずに、ゆっくりと自然に熟成させる固練り（コールドプロセス製法）でつくりました。商品を企画したのは、ヘアメイクアップアーティストのYOSHINKOさん。米ぬかの美容効果に着目し、敏感肌の方にも使っていただけるマイルドなせっけんが完成しました。クロモジがほんのりと香り、やさしい洗い上がり、肌がふっくらとする保湿感。特別なバスタイムにも、ギフトにもおすすめです。



YOSHINKO さん

WALTS 主宰ヘアメイクアップアーティスト。自然由来成分100%にこだわったビューティーケアブランド「YSK」主宰。2020年自身初の著書「一生つかえるメイク」（光文社）を出版。

有機栽培米の米ぬかを提供する「橋谷田ファーム」橋谷田さん詳細は p.29 へ

クロモジ

抗菌・抗炎症作用がある植物。焼酎に漬けた葉のエキスを湿布として使うなど、昔から薬草としても親しまれています。



WALTS
walts.shop-pro.jp

西会津米の米粉うまれの、 モチモチのおいしさ。



雪下キャベツの小籠包

小籠包の餡には西会津産の「雪下キャベツ」をたっぷり使い、米粉を練りこんだ皮で包みました。付属のスープで煮込むと、おいしさがさらにアップ。モチモチの皮、野菜のうまみが詰まった餡、芳醇なスープの相性がたまりません。

雪下キャベツの焼売

地元で農業を営む「めごい菜農園」が育てた「雪下キャベツ」を餡にたっぷり使い、西会津米の米粉を練りこんだ皮で包みました。西会津米と西会津野菜の味わいを一度に楽しめます。



西会津味噌ラーメン

西会津米の米粉を練りこんだモチモチ食感のちぢれ麺に、コク深い味噌スープがからむ絶品ラーメン。西会津産の野菜のうまみが、ヘルシーな味わいを引き立てています。地元の人気居酒屋「はるよし和粋」と、地元野菜を中心とした直売所を営む「風の丘ファーム」のコラボ商品です。





日本の田舎、
西会津町。
Traditional countryside in Japan,
NISHI-AIZU.

の
酒



200年続く酒造り



栄川酒造
sakaegawa.com



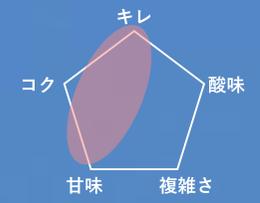
さかえがわ
栄川酒造

旧越後街道野澤宿の通り沿いに、酒蔵と店舗をかまえる「栄川酒造」。文化4年（1807年）、会津藩から酒箒（酒造免許）を得て、16代目にわたってこの土地でお酒を造り続けています。お酒は、水が命。飯豊山系のゆたかな雪どけ水を使って醸されるお酒は、まろやかで心地よい余韻が後を引く味わい。ひと口ふくんだ瞬間、日本の田舎の風景が思い浮かぶような、西会津の地酒をお楽しみください。



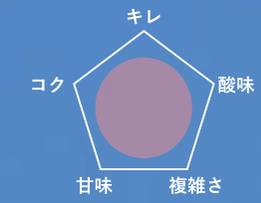
石田治部少輔三成
大吟醸酒

杜氏が戦国武将石田三成の一族の末裔であることから名付けられたお酒。山田錦100%で仕込み、深みとふくよかさの中にキレが感じられます。全国清酒鑑評会2016年に金賞を受賞しました。味わいのバランスがよく、初めて栄川酒造のお酒を飲まれる方にもおすすめ。



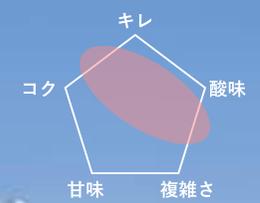
純米大吟醸

米・米麴で仕込むため、お米と酵母由来のフルーティな香りが引き立ちます。味わいのバランスがよく、初めて栄川酒造のお酒を飲まれる方にもおすすめ。



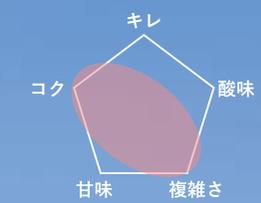
ちどりあし

会津産の五百万石100%で仕込んだ本醸造原酒タイプのお酒で、お酒の旨み・深みを感じられます。お燗にすると、お米とお酒の味わい深さが引き立つのでおすすめです。



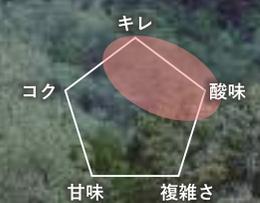
はしご酒

会津産米500万石を100%使用し、お酒本来の旨味を残しながらすっきりと仕上げたお酒。一度口にすれば、ついついはしごしたくなる不思議なお酒です。



慧眼 純米吟醸酒

福島県のオリジナル酵母を使用し、アルコール分13%とやや低めに仕込み、飲みやすいお酒です。ワインタイプのお酒で、女性の方におすすめです。



飲みくらべセット

栄川酒造の人気商品をラインナップした贅沢な飲みくらべセット。本醸造・普通酒・大吟醸・純米大吟醸で仕込んだ5種類のお酒が楽しめます。

※味わいのチャートは、本誌の独自評価です。



日本の田舎、
西会津町。
Traditional countryside in Japan,
NISHI-AIZU.

の ミネラル野菜

野菜がおいしいヒミツは、

土にあり。

西会津が推す「ミネラル野菜」

「健康な身体は健康な食べ物から、健康な食べ物は健康な土づくりから」。その理念のもと、西会津町では平成10年から健康な土づくり事業に取り組んでいます。身体を動かすために欠かせない栄養素「ミネラル」に着目し、マンガン・鉄・銅・亜鉛・ホウ素のミネラル成分5要素を含み、19項目の土壌診断に基づいて施肥設計を行ったバランスの取れた土壌を整備。こうして育てられた野菜を「ミネラル野菜」と呼び、「にしあいづ健康ミネラル野菜普及会」の契約農家さんが、季節の野菜を栽培しています。



(株)会津野菜の「ミネラル野菜」直送便

「にしあいづ健康ミネラル野菜普及会」の協力体制のもと、ミネラル分をバランスの良く含んだ健康な土壌から育まれた「ミネラル野菜」を朝採れでお届け。フレッシュな野菜は、みずみずしく、ハリがあり、味わいの濃さや甘さもひと味違います。

会津野菜
shop.aizu-yasai.jp



坂井農園のミニトマト「清流ノ曉」

山深い「奥川地域」で唯一の若手農家がつくるミニトマト。清らかな山の水をひいて育てられた真っ赤なトマトは、ひと口ほおぼると濃厚な味わいとやさしい甘みが口いっぱいに広がり、あと味もスッキリ。おやつ感覚でぱくぱくと食べ進められるおいしさです。

▶坂井農園さんについて詳しくは p.40 へ！



チャルジョウ西会津農場
danavillage.stores.jp



チャルジョウ西会津農場の有機野菜

家族で30年以上、薬剤や化学肥料に頼らない農業を実践している「チャルジョウ西会津農場」。肥料は米ぬか・酒かす・桜の落ち葉のみを使用し「有機JAS認証」を取得しています。ミニトマトや人参などのお馴染みの野菜をはじめ、ホーリーバジル、さきび豆、庄右衛門いんげん、紫ほおずきなど、珍しい野菜の栽培も！



杉原農園のぶどう

福島県生まれのオリジナル品種「あずましずく」と、ぶどうの女王とも呼ばれる「シャインマスカット」を栽培。種がないため食べやすく、お子さまやお年寄りの方にもおすすめです。「あずましずく」は大粒で見た目は巨峰のようですが、くどくない甘さで心地よい余韻が続きます。食べはじめたら止まらない、飽きのこないぶどうです。



べっぴんしゃんの絶品乾燥しいたけセット

西会津に移り住み、きのご農家として新規就農した三留良司さんが手がける「乾燥しいたけ」と「乾燥きくらげ」のセット。三留さんは「べっぴんしゃん」という屋号で活動し、栽培したきのごは全国品評会で金賞を受賞されています。西会津は昼夜の温度差が激しく、栽培するハウスの環境を良好に保てるよう、温度と湿度管理を徹底。農薬を使わず丁寧に育てられたきのごは、肉厚で噛めば噛むほどにうまみが滲み出します。



齋藤俊二さんのみしらず柿

秋になると、西会津では町内のいたるところで柿が実っている風景が見られます。「みしらず柿」は、福島県会津で栽培されている渋柿。会津の歴史とともに古くから栽培されてきました。渋柿ですが、出荷前に渋抜きを行い、食べごろをお手元へお届けします。味わいがよく、毎年皇室へも献上されています。



きのご屋のきくらげ

ふりふり、こりこりの食感がクセになる「きくらげ」。会津管内で乾燥きくらげの生産量 No. 1 を誇る「きのご屋」は、全国的にもめずらしい国産きくらげの栽培を 12 年前から行っています。世界的な農業認証「グローバル GAP」、福島県独自の認証「ふくしま県 GAP」を取得。自然環境や食べる人の安全・安心に配慮したきのごを菌床づくりから手がけています。



チャルジョウ西会津農場のオーガニックメロン

「有機 JAS 認証」を取得している農場で育てられたメロン。定植後にいっさい水を与えない「無灌水栽培」により、植物本来の生命力が発揮され、みずみずしく濃厚で後味爽やかなメロンができました。市場に出回っている一般的なメロンとは味わいや食感が異なり、メロンが苦手な方からも好評です。特別な日や、大切な方への贈りものとしてもどうぞ。

～西会津流・生きくらげの食べ方ベスト3～



わさび醤油でお刺身



白和えにして!



煮物にして!



ゼロからはじめた「雅楽川農園」の挑戦。

西会津で生まれ育ち、未経験で農業をはじめた雅楽川哲さん。もともと会社員だった彼が、新規就農を志したきっかけや、目指す農業のあり方などを語ってもらいました。

農業って、 すごくおもしろい。 「坂井農園」

西会津の奥川地区を拠点に、農業を営む坂井康司さん。「はじめは農家をやるつもりはなかった」彼に、どんな心境の変化があったのか？どんな農業を目指しているのか？坂井さんのこれまでと、これからを語ってもらいました。



農業の担い手となり、西会津を支えたい。

農業の道を歩み始めたのは、2018年頃。地元の人たちから農業の担い手不足が課題になっていることをよく耳にしていたのと、いつかは経営者になることを目指していたという背景もあって、農業を始めてみたいと考えたのです。とはいえ、私は身内に農業を生業としている人がおらず、農作物の栽培方法も分からない。しかし私が選んだのは、ゼロから農業をスタートする「新規就農」という道。農業の担い手となり、西会津を支えたいという気持ちでした。初期投資もかかるため覚悟を決めるには勇気がいるし、家族から反対の声もありました。そんな時に、背中を押してくれたのは「坂井農園」を営む坂井康司くんでした。「農業おもしろいぞ。やってみねえか？」その言葉が、心を決める後押しになりました。

正解もゴールもない。それが楽しい。

「雅楽川農園」という屋号で活動を始めて2年目になり、きゅうりとお米を栽培しています。きゅうりは康司くんから栽培方法を教えてもらい、彼は自分にとって師匠のような存在です。新規就農して思うのは、野菜の品質が良いのは大前提として、その上でお客さんが求めているものでなければ手にとってもらえないということ。どれだけ自分がつくったものに自信があっても、それだけでは経営が成り立たない。その現実を目の当たりにして、お客さんのニーズを知るために積極的に直売会に参加したり、西会津で事業を営む「イナカ農産」の仲川さんから経営の考え方を学んだり、活動は作物をつくることだけに留まりません。農業に正解やゴールはなく、探求・探究の毎日。それが自分にとっては楽しいんです。3年目以降は、より農業の規模を広げ、お客さん目線のものづくりに尽力していきたいです。スタッフの雇用をさらに広げ、町の活性化にも貢献できればと考えています。



雅楽川農園
instagram.com/utagawanouen21/

土木業から、父の背中を追って農業の道へ。

もともと、車の整備士の仕事をしたいと思っていたんです。実際には、土木や塗装の仕事をするようになったのですが、「農業をやりたい」と思ったことは昔から一度もなく。その気持ちが変わったのは、農業を営む父から「農業やんのか？」と聞かれたことがきっかけです。「後を継ぐのは僕しかいないな」と。「やる」と返事をして、20代半ばから手伝いはじめ、2年目に経営を担うようになりました。今は「坂井農園」という屋号で、きゅうり・ミニトマト・コシヒカリを栽培しています。親から経営を継いだ後は、自分の農業のスタイルを確立しようと、学びの連続でした。今も試行錯誤しているところですが、地元の農家さんや農協へ行ってノウハウを教えてもらったり、不耕起栽培に挑戦してみたり。はじめは、納得いく野菜をつくれずに悔しい思いをしたのですが、7年ほど経って、ようやくこれが自分の農業だと胸を張って活動できるようになってきました。農業って、すごくおもしろいんですよ。

農業は土地を、景観を、守る仕事。

自分が前のめりになって農業に取り組んでいるのは、ある出来事がきっかけです。2022年夏に町を襲った豪雨災害。川が氾濫して田んぼが泥だらけになり、荒れた土地を目の前にして、どうすればいいか分からなくなった時期がありました。そんな時、近所の農家さんや地域の人が支えてくれたんです。田んぼの整備や、作業が遅れてしまったミニトマトの収穫ボランティア。そんな人たちの支えを受けて、「立ち止まっている場合じゃない。農業はこの土地を、景観を守っていく仕事なんだ」と、奮起しました。奥川地区の農家の中では、「坂井農園」が最も大々的に農業を営む事業者です。地域の方からの期待に、正直プレッシャーを感じる時もありますが、つぶれちゃいけないですね。今は、より多くの人に「坂井農園」の野菜を手にとってもらえるよう、商品化にも力を入れているところ。「おいしい」をきっかけに、西会津や奥川の里山保全、農業に興味を持ってもらえたら嬉しいなど、想いを膨らませています。



坂井農園
instagram.com/nishiaizu_sakai.nouen/
facebook.com/sakainouen.ks



のかあさんたち



黒米味噌本舗
鈴木 二三子さん

お米と野菜を食べて育つ、 二三子さんの烏骨鶏卵。

西会津でお米や野菜、お味噌なども手がけている「黒米味噌本舗」の鈴木二三子さん。自宅にある農場では、平飼いで烏骨鶏を飼育しています。二三子さんが育てたお米、野菜を食べて、のびのびと暮らす烏骨鶏が産む卵は、一般的な鶏卵に比べて小ぶりながらも、指でつまめるほど卵黄が濃厚。上品なあまみがあり、不思議と後味はすっきりしています。烏骨鶏卵は週に一度ほどしか産まない希少な卵です。シングルに卵かけごはんをいただくのがおすすめです。



西会津の大地が育む、 ハウスキッチンの えごま蕎麦。

えごまと蕎麦を栽培し、加工販売している「ハウスキッチン」の目黒満里子さんが手がけた「えごま蕎麦」。通常、「えごま」は加工して「えごま油」として道の駅などで販売していますが、油をしぼる時に出る殻を廃棄してしまうことに、後ろめたさを感じていました。その殻をどうにかして、生かすことはできないか？そこで考えたのが「えごま蕎麦」。製麺所に通い、何度も試作を重ねて完成しました。一般的な蕎麦に比べて、少し色味が濃いのが特徴です。蕎麦は在来種にこだわり、風味豊かな味わいに仕上がっています。



ハウスキッチン
目黒 満里子さん



同気食堂
氏家 待子さん



秘境・奥川郷に暮らす おかあさんたちの 手仕込みハンバーグ 「こらんしょバーグ」

西会津の中でもとりわけ山との距離が近く、昔ながらの農村集落の営みがのこる奥川地区。廃校となった寄宿校舎を改装し、レトルト食品を製造している加工所があります。その名も「奥川こらんしょ村」。奥川に暮らすおかあさんたちが作り手となり、「自分たちの孫や子どもたちに添加物が入ったものを食べさせたくない」という想いから、保存料無添加の身体にやさしい商品を手がけています。「こらんしょバーグ」は、福島県の麓山高原豚・福島牛に西会津産の車麩をつなぎに用いて、一つひとつ手仕込み。ソースには西会津産の野菜をふんだんに使い、まろやかな味わいです。



奥川こらんしょ村のみなさん



お客様と 同じ気持ちで100周年、 同気食堂の馬刺し。

大正10年創業、「お客様と同じ気持ちで」という想いから名がついた「同気食堂」は、地元民から愛されるまちの台所です。中でも人気のメニューが「馬刺し」。サラブレッドのような体型の「軽種馬」の肉を使っているため、脂が少なく、ヘルシーながらも濃い旨味が味わえます。にんにくが利いた同気特製の辛味噌タレをからめて食べるのが、西会津流の味わい方。炊きたてのごはんをお供にどうぞ。ちなみに会津は、日本三大馬刺しの地として有名です。

の
手しごと



野沢民芸 早川美奈子さん



▲ 出ヶ原和紙 / 製品



▲ 和紙を使った地酒ラベルのアート作品



赤べこの生産シェア七割



野沢民芸
nozawa-mingei.com

江戸時代から続く、
職人の手しごと。

野沢民芸

江戸時代から明治にかけて、全国各地でつくられた郷土玩具。会津を代表する郷土玩具「赤べこ」は、ふるくから厄除けのお守りや縁起物として、会津の人々に愛されてきました。ちなみに「べこ」とは、会津弁で「牛」のこと。そんな赤べこ生産のシェアをおよそ7割も占める工房「野沢民芸品製作企業組合」が、西会津町にあります。50年以上にわたり、会津張り子を中心に郷土玩具や民芸品をつくり続けている「野沢民芸」。ころんと愛らしいフォルムの赤べこは、贈りものや西会津のおみやげとしても人気です。

アーティストを中心に
数年かけて復活した和紙づくり

出ヶ原和紙工房

会津藩の御用紙として使われていた歴史がある「出ヶ原紙(いづがはらがみ)」。その名は伊豆の国から訪れた人が紙漉きを伝えた事に由来すると言われています。かつての西会津町では、豊富な清水を背景に、良質な紙が町内各地で漉かれ、近隣では「出ヶ原」の名が紙の代名詞となるほど有名な和紙産地でした。その生産は昭和中期に一度途絶えますが、アーティストの滝澤徹也氏、地元有志や西会津国際芸術村により再興の動きがおり、現在はアーティストや地域おこし協力隊、地元の人たちによって、出ヶ原和紙の文化を繋ぎ現代に生かすさまざまな活動が行われています。工房見学や紙漉き体験なども随時開催しています。



出ヶ原和紙
tetsuya.main.jp/washi/

かつての会津藩御用紙



▲ 出ヶ原和紙の原料である楮(コウゾ)を釜で煮る



▲ 出ヶ原和紙工房 滝澤さん(左)、大山さん(右)



おうちで、手軽に、西会津。

この町の自然と、ここに暮らす人たちの結びつきから生まれた、西会津らしさを感じられる味と品。毎日の定番にも、ちょっとしたご褒美にも。お気に入りが見つかります。



会津山塩プレーンスコーン

温泉水を焚いてつくったミネラルたっぷりの「会津山塩」を使ったスコーン。素材本来のやさしい甘みに、ほっとひと息。



ドライトマトと紫ほおずきジャム

30年以上、有機農業を実践する農家が手がけたミニトマトと、日本では珍しい大玉の有機ほおずきを加工。素材本来のやさしいあまみとコクを楽しんで。



麟太郎みそ

西会津米コシヒカリの新米を惜しみなく100%使って麴にし、農業を使っていない大豆と塩のみで仕込んだ味噌。雑味がなく深みのある味わい。



油味噌

米糀味噌に油と砂糖をまぜて、甘辛く仕上げた田舎の味。炊きたてごはんによく合います。



米麴味噌とコシヒカリセット

p.30、p.41に登場している農家・鈴木二三子さんが手がける西会津米コシヒカリと米麴味噌。やさしく包み込まれるような、西会津の母の味。



西会津おかき

西会津産のもち米「こがねもち」を使ったおかき。2度揚げにより、軽いザクザク食感がやみつきになるおいしさです。



会津大山寒晒そば

大寒の時期に、大山祇神社御本社を水源とする中野川に蕎麦の実を浸し、遥拝殿の軒下につるして寒風に晒し、大山祇神社に奉納・祈祷したありがたいお蕎麦です。



えごま油

西会津の上野尻地区で栽培された「えごま」を搾ってつくられた「えごま油」。クセのないさらりとしたオイルで、口馴染みも良好です。



漬物ぜんまい

西会津生まれの素材でつくられた無添加の漬物。薬味として、いつもの食卓の味をアレンジするのにもおすすめです。



乾燥ぜんまい

冬は2~3mほどの積雪がある山間地域で育った良質な「ぜんまい」だけを摘みとり商品化。春の味わいを、いつの季節も食卓で楽しめます。



野山のピクルスセット

春になると西会津のいたる場所で摘みとれる「ふきのとう」と、西会津産の「たまねぎ」、「そうめんかぼちゃ」をピクルスにしました。保存料・着色料無添加で、安心・安全のおいしさ。



なめこ缶

大粒でぷりぷり食感がクセになる西会津の「なめこ」。この地の清らかな水が、ワンランク上のおいしさの秘訣。



西会津味噌ラーメン 会津ラーメン味巡り

味噌ラーメンは西会津名物として人気があり、西会津米の米粉を練りこんだモチモチ食感のちぢれ麺が特徴。会津地方の名物ラーメンを一度に楽しめるセットも。



西会津アイス 米ぬかせっけん

西会津米を使ったデザートやナチュラルソープは、頑張った日のご褒美や、贈りものとしてもおすすめです。お米を暮らしに取り入れて、心からヘルシーに。



雪下キャベツの小籠包 & 焼売

甘みがぎゅっと詰まった「雪下キャベツ」を餡にたっぷり使い、西会津米の米粉を練りこんだ皮で包みました。モチモチ、じゅわ〜がくせになるおいしさ。



日本の田舎、
西会津町。
Traditional countryside in Japan,
NISHIAIZU.

の
故くて新しい

未来のための、土づくり。 西会津国際芸術村



西会津国際芸術村
nishiaizu-artvillage.com

西会津の新しいモノ・コト・感性は、
ココから生まれる。

廃校になった中学校の木造校舎を活用して、2004年に設立された西会津国際芸術村。毎年、たくさんのアーティストが滞在しながら制作をするアーティストインレジデンスや、企画展示・イベント・ワークショップ、演劇やコンサートからサーカスまで、西会津らしさを追求した“故くて新しい”モノやコトがここから生まれています。近年では、アーティストだけでなく、企業からも新しい考え方を求めて沢山の人が訪れるように。アイデアの種が飛んできたら、その芽が出て育ちやすいような土づくりをすること。芸術村は、インキュベーション施設としての役割も果たしています。



誰もがアーティストに戻れる場所

西会津国際芸術村では、生まれつき誰もがアーティストであると考えているそう。でも、普段の暮らしの中で、子どもの頃のように自分を思いっきり表現することって、なかなか難しい。だから、ここに来ると、のびのびできて、アーティストに戻れる。そんな場づくりを実践しているため、芸術村を通して、表現活動の幅を広げる町民アーティストも生まれてきています！

町民アーティストのご紹介

石川 宣彦さん

Ishikawa Norihiko

風景写真を長年取り続けてきた石川さん。西会津へのUターンをきっかけに、芸術村で個展を開催。そこでスタッフからSNSの使い方を伝授され、それ以来、ほぼ毎日西会津の風景を撮影し、SNSに投稿しています。今では町一番のインスタグラマー！

* 本誌 p.1 p.7 p.17 p.25 p.34 の風景写真は石川さん撮影です。



▲p.1 の石川さん撮影写真



▲p.23 の青津さん撮影写真

青津 京介さん

Aotsu Kyosuke

西会津を代表するドローン写真家は、なんと町役場の職員。毎日の気象を予測して早朝から撮影に奔走しています。芸術村のアーティストが撮影したドローン映像に感銘を受け、以来独学でどんどん腕をあげている青津さん。今では、プロのアーティストチームの撮影に入ることも！* 本誌掲載の空撮は全て青津さん撮影の写真です。

これぞ、日本の田舎。 NIPPONIA 檜山集落

山の中腹から雲海を見下ろすような場所にあるたった2軒の集落、「檜山集落」。ここに江戸時代から続く蔵と納屋を改修した古民家宿があります。背には高陽山、目の前には棚田、と近くには幾重にも層をなす山々の景色。自然の循環、日本の春夏秋冬を五感で感じながら「ここにあるものを見つめる」時間は、現代に生きるわたしたちにとって究極の贅沢であり、生きることの本質にふれる体験かもしれません。日本の田舎で、あなたはどんなふうに過ごしますか？



檜山プラネタリーヴィレッジ
web narayama-planetary-village.jp
sns instagram.com/narayama_planetary_village/



■
NIPPONIA

檜山 集落
NARAYAMA
VILLAGE

昔ながらの古民家宿 グリーン奥川

西会津出身のおばあちゃんが切り盛りする農家民宿。町内でも特に山深い集落にあり、昔ながらの古民家で農村の暮らしを体験できます。おばあちゃんお手製の料理は、ほっと和むやさしい味。

にしあいづ観光交流協会・農家民宿
nishiaizu-kanko.org/syukuhaku

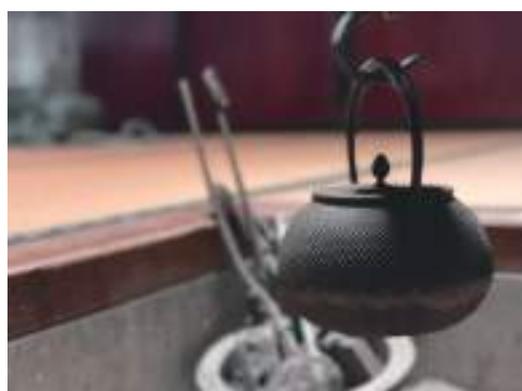


Dana Village 自然の中で自分を見つめる

ダーナビレッジは、健康回復とじぶん発見をテーマにした体験型の宿泊施設。かつて小学校の分校だった木造校舎を改築した木のぬくもりを肌で感じられる空間です。有機野菜を栽培する「チャルジョウ西会津農場」も運営しており、ここで収穫されたオーガニック野菜をつかった心と身体にやさしいヴィーガン料理で訪れる人を癒します。ご希望の方には農業体験や、オーナーの美農里さんによるヨガ・セラピーなども受けられます。



web danavillage.com
sns instagram.com/danavillage/



ゲストハウス ひととき 自分の家のようにくつろいで

2018年に上野尻地区の桐下駄屋をリノベーションして生まれた小さな宿。オーナー夫婦の人柄・暮らし方に惹かれて全国からゲストが集まります。季節ごとの農作業や町の人々がガイドになる川遊びや溪流釣りなど、町の自然を感じられる体験もできるそう。宿に併設しているカフェ「CHAMISE」や、近隣には私設図書館「いとなみ」も運営。1日だけでなく長期の滞在も楽しめます。



web gh-hitotoki.com
sns instagram.com/hito_toki.fukushima/

日本の田舎に行こう。

田舎派か。都会派か。

私は田舎派。

だって田舎は落ち着き、都会は疲れるから。

僕は都会派。

だって田舎は退屈、都会は楽しいから。

でも、それって本当？

田舎にだって都会にない楽しさがある。

都会にだって田舎にない落ち着く場所がある。

対立すると、お互いの良いところが見えなくなる。

田舎は都会に憧れ、都会も田舎に憧れる。

そんな関係がいい。そんな関係が日本らしい。

田舎を認めて都会を愛す。都会を認めて田舎を愛す。

お互いのまだ知らない日本に触れ合って、感嘆しよう。

そんな関係が日本らしい。

日本の田舎と都会は、仲間です。

西会津町は、

縄文の時代から続く

日本らしさを守りながら、

田舎と都会を繋ぎます。

日本の田舎、西会津町。





の町政 65 年

29.7	河沼郡野沢町、尾野本村、登世島村、睦合村、下谷村、上野尻村、群岡村、宝坂村、耶麻郡新郷村、奥川村の1町9ヵ村が合併し「西会津町」が誕生
29.8	初の町長選挙　初代町長に渡部晴松氏当選
30.4	徳沢出張所、野沢保育所を開設
7	奥川診療所を開設
10	国鉄尾登駅開業　尾野本支所開設
31.7	黒沢地区を中心に大水害　死者6名、行方不明3名、浸水家屋114戸、被災者988名　被害額5億2,700万円
11	黒沢水害被災者9世帯58名が故郷を離れ南米ブラジルへ移民する
32.3	町営住宅12戸が下小屋に完成
〃	群岡診療所、野沢保育所完成
4	「広報にしあいづ」第1号発行
33.5	滝坂地区内地滑りで住居移転決定
8	町長選挙　渡部晴松氏再選
9	台風21・22による水害発生　家屋・農地など被害額1億2,768万円
34.4	黒沢小学校・中学校が独立
〃	西会津農業協同組合発足
5	東北電力・上野尻発電所竣工
35.3	財政再建債を返済　赤字団体を返上
〃	西三郷農業協同組合発足
10	高郷村の軽沢地区を編入
〃	西会津町土地改良区発足
36.4	西会津中学校が発足
7	第1回いいでて集い開催
37.3	野沢劇場街で大炎災（死者1名、被災世帯20戸、被災者数91名）
5	国道49号1級路線に昇格
〃	下野尻大火（損害4,149万円、被災世帯29戸、被災者数137名）
8	町長選挙　渡部晴松氏三選
38.4	役場庁舎を野沢字下小屋上へ新築移転
11	合併10周年記念祝賀会
39.4	県立西会津高等学校誕生（普通科110名　商業科55名）
6	新潟地震（震度5　被害額約700万円）
〃	群岡、新郷両支所を廃止し連絡所を置く
7	西会津中学校落成
8	西会津町体育協会が会員270名6部会で発足
40.6	群岡中学校が火災で焼失（損害2,200万円）
〃	渡部晴松町長死去
7	奥川で水害（被害額1億850万円）
8	町長選挙　山口博也氏初当選
41.4	屋敷小学校が独立開校
8	出ヶ原円満寺観音堂、国の重要文化財に指定
42.8	集中豪雨により奥川・極入地区を中心に大水害（被害総額8億1,000万円）
10	新郷・豊洲地区で農業構造改善事業のはめ整備が始まる
43.9	第1回町長旗争奪野球大会開催
10	奥川橋の架け替え工事完成
11	明治100年記念総合祝賀式

44.1	生活改善センター（現公民館）オープン
5	芝草地区内「小屋田遺跡」発掘調査始まる
7	町の敬老年金（85歳以上）支給始まる
〃	町長選挙　山口博也氏再選（無投票）
12	群岡寄宿舎完成
〃	黒崎山にテレビ中継局が開局（NHK）
45.1	奥川地区・地域集団電話開通（355台）
3	ゴミ焼却場完成　ゴミ収集開始
7	喜多方地方広域市町村圏指定（1市3町3村）
12	議員定数を削減　26名から22名に
46.5	国重要文化財「出ヶ原円満寺観音堂」復元
10	国道49号全線舗装開通
11	地域集団電話開通（野沢・尾野本・群岡・新郷地区1,178台）
12	黒沢集落堂のスキー場オープン
〃	西会津寄宿舎完成
47.4	喜多方地方広域市町村圏消防署西会津分署開署
〃	誘致企業第1号、川崎自動車工業㈱西会津工場が完成し操業を始める
5	縄文敷石住居跡を復元（芝草地区内）
8	広域水道事業の工事始まる
〃	成人式が1月から8月に行われる
11	奥川・克雷管理センター完成　給食センターを併設、同所に奥川支所を移転

48.5	ホームヘルパー事業始まる
7	町長選挙　山口博也氏三選（無投票）
11	町制施行20周年記念式典　町の旗・町の木「桐」・町の花「おとめゆり」を制定
49.1～3	豪雪による被害額7,000万円
5	橋屋橋新設工事完成
9	第1回町内小学校体育祭開催
11	国鉄野沢駅の改築が完了
〃	町内の電話がダイヤル化
50.10	老人憩の家オープン
51.4	水道課設置
5	広域水道工事竣工（47.9着工）　7月から給水開始
52.2	豪雪で松平県知事視察来町
3	西会津町農業協同組合発足（西会津・西三郷農協が合併）
5	国道49号西会津バイパス工事起工
〃	バイパス工事に伴い小屋田遺跡発掘調査
7	町長選挙　山口博也氏四選
53.2	第1回町民スキー大会開催
3	公民館改築工事完成
6	集中豪雨による被害総額6億8,994万円
11	雷山生活環境保全林事業竣工
〃	冬期孤立集落機能維持施設（ミニ克雷センター）完成
54.4	保健センターオープン（県内第1号）
〃	農業構造改善センターオープン（現新郷連絡所）
7	尾野本「糸里制鐵橋」発掘調査
10	国道49号西会津バイパス開通
11	第1回交通安全町民大会開催
12	全国定住圏公園整備促進協議会会長に山口博也氏が選出される

55.2	豪雪対策本部を設置
〃	家屋損壊など被害総額1億9,000万円
8	町営芝草球場オープン
10	特定地区公園「さゆり公園」の建設始まる
56.6	さゆり公園野球場オープン（夜間照明設備付）
7	町長選挙　二瓶幸雄氏初当選（無投票）
57.6	さゆり公園多目的広場完成
〃	台風10号による被害額約1億2,899万円
〃	群岡へき地保育所新築開所
12	町道熊沢線にスノーシェルター完成
58.3	国鉄上野尻駅・徳沢駅が無人駅となる
〃	町制施行30周年記念列車「町民号」運行
9.1	滝坂地すべり対策が国の国転となる
2	黒沢中学校を西会津中学校に統合
〃	奥川地区簡易水道給水開始
5	さゆり公園テニスコート完成
59.2	徳沢出張所を徳沢駅舎と併設で改築
3	長期総合計画策定　在京西会津会結成
8	さゆり公園50mプール完成
11	町制施行30周年記念式典を開催
12	杉山・徳沢地区簡易水道給水開始
60.7	町長選挙　山口博緒氏初当選
12	さゆり公園体育館完成
〃	宝坂地区簡易水道給水開始

61.8	西会津町東北横断自動車道対策協議会設立
〃	桐下駄はいて「ふるさとサミット」開催
11	第1回西会津の文化と産業祭開催
62.8	外国語教育と国際交流のため英語指導助手招致
63.2	第1回ふるさと雪まつり開催
8	磐越自動車道西会津IC建設予定地中心杭打ち式
〃	西会津工業団地誘致第1号「山登」との調印式
12	老人保健施設「憩の森」、西会津診療所開所
64.1	昭和天皇御逝去　年号が昭和から平成に
〃	克雷生活圏整備事業で整備した流雪溝が稼動
元.5	さゆり公園総合オープン記念式典
7	町長選挙　山口博緒氏再選（無投票）
11	町制施行35周年記念総合落成式を開催
〃	第1回桐がタマラソン大会開催
2.3	屋敷小学校が閉校　118年の歴史に幕
11	温泉入浴施設「さゆりの湯」オープン
3.2	第1回雪国まつり開催
4	県内で唯一「結核予防会総裁賞」を受賞
〃	教員住宅が完成
5	さゆり公園野球場整備完了　初のプロ野球開催（イースタンリーグ公式戦日本ハム VS 巨人）
7	佐藤知事・田部井淳子さんを迎え「飯豊サミット」を開催
8	JR野沢駅無人化に伴い町が業務を受託
〃	人材育成講座「さゆり塾」スタート
10	栃西会津町振興公社設立
4.1	西会津診療所にCTスキャナー導入
2	第1回西会津若者海外派遣研修を実施
3	新郷簡易水道完成　給水開始
8	特別養護老人ホーム「さゆりの園」開所
〃	第1回少年の主張大会開催
11	成人病予防対策調査実施
12	温泉健康保養センター・温泉施設完成
5	世界一の長寿村　沖繩県大宜味村を視察
3	屋内プール・温泉リハビリプール完成
4	「健康の町」宣言　毎月第2土曜日を町民健康の日と定める
〃	「百歳への挑戦」町民大会開催
7	町長選挙　山口博緒氏三選（無投票）
10	異常気象、戦後最悪の冷害（会津地方の作況指数84）
〃	フレンズワールド（「フォード アルファ」オープン
12	温泉健康保養センター「ロータスイーン」オープン
6.4	移動通信用施設完成　携帯電話使用可能に
〃	女性消防隊が結成される
6	在宅介護支援センター開所
8	農作物等干ばつ対策本部設置
〃	沖繩県大宜味村児童生徒との交流事業開始
9	あいづ地方拠点都市地域に指定される
11	「在宅健康管理がら」を全国の自治体で初めて導入
〃	在宅介護リフレッシュ事業開始
〃	町制施行40周年記念式典を開催
12	磐越自動車道「野沢トンネル」貫通式
7.2	NHK西会津ラジオ中継所開局
3	「新西会津長期総合計画（すこやかまちづくりプラン）」策定
5	農業集落排水処理施設小島地区一部供用開始
〃	フレンズワールド管理棟オープン
6	温泉健康保養センター「休憩施設」オープン
8	記録的な集中豪雨　各地に大きな被害（被害総額12億4,000万円以上）
10	第50回ふくしま国体・ゲートボール競技を開催
8.4	雇用促進住宅の入居開始　西林地区に新たに西林東自治区が出来る
10	喜多方地方広域西会津消防署が開署
〃	西会津都市計画地域指定される
〃	磐越自動車道西会津ICを会津坂下IC間が開通
7	新潟、福島豪雨　災害対策本部を設置（被害額3億7332千円）
〃	「市町村合併に関する住民アンケート調査」実施
8	町道芝草西林線「芝草橋」開通
9	県内の国道49号で初の道の駅「にしあいづ」開所
〃	交流物産館「よっせ」ランドオープン
〃	「自立宣言」を全会一致で可決
〃	野沢町内街路灯2期工事竣工・点灯式
〃	西会津国際芸術村、開村式
11	町制施行50周年記念式典を開催
〃	ミネラル栽培活性化特区が認定される
〃	「百歳への挑戦ミネラルっ娘」を商標登録
17.4	ケーブルテレビIP電話サービス開始
〃	第1回西会津国際芸術村音楽祭開催
〃	協働のまちづくり推進のため前三重県知事・早稲田大学大学院北川正恭教授の講演会を開催

西会津町立野沢小学校（旧黒沢小学校）校舎

〃	全国ふるさといきいき村づくりサミット開催
〃	厚生大臣より「保健事業推進功労表彰」を受賞
11	地方自治法50周年記念「自治大臣表彰」受賞
10.1	高陽根地区簡易水道施設給水開始
〃	野沢町内克雷活動実行委員会・雪対策功労賞受賞
3	屋内ゲートボール場「すばーく西会津」完成
4	さゆりが丘ニュータウン分譲開始
8	豪雨対策本部設置　集中豪雨の被害総額約10億円
10	ホームヘルパー（2級課程）養成講座開講
11	ふるさとまつり&レジャーフェスティバル開催
12	ケーブルテレビ2期工事完成　町内全域で放送開始
〃	日本計画行政学会より「最優秀計画賞」を受賞
11.3	地域振興券の交付
〃	議員定数を削減　20名から18名に
〃	国道400号下谷バイパス、県道大久保野沢停車場線開通
4	シルバー人材センター業務開始
6	町議会議員選挙開票の模様をケーブルテレビで生中継
7	県内初の複合型スポーツクラブ「西会津スポーツクラブ」結成
10	厚生大臣より「在宅福祉事業推進功労表彰」を受賞
〃	過疎地域活性化優良事例で「国土庁長官賞」を受賞
〃	町制施行45周年記念式典を開催
12.1	下野尻除雪組合が雪対策功労賞受賞　奥川中学校が雪対策功労賞特別賞を受賞
2	統合中学校の名称「西会津中学校」に決定
4	介護保険制度が始まる
〃	情報公開制度スタート
〃	さゆりオートパーク完成オープン
〃	介護センター完成
6	特定環境保全公共下水道「野沢浄化センター」完成
7	生活圏ネットワークジョイントミーティングin西会津開催
〃	野沢潤一岩手県立大学学長が基調講演
11	小綱木地区簡易水道完成　給水開始
13.1	記録的な豪雪　豪雪対策本部設置
3	統合中学校の校舎が完成
6	西林大橋が開通
7	町長選挙　山口博緒氏五選（無投票）
8	福祉施設にアロマセラピーを導入
9	うつくしま未来博に町が出展し大盛況
10	新郷中学校・奥川中学校で閉校記念式典
11	西会津中学校・群岡中学校で閉校記念式典
14.1	福祉施設にアロマセラピーを導入
4	町民バス「Let'Goシャトル」運行開始
〃	統合・西会津中学校開校
〃	デイサービスセンター、生活支援ハウス、痴呆性高齢者グループホームが完成
7	台風6号、7号により大きな被害
8	奥川地区に移動通信用施設が完成
12	野沢町内街路灯1期工事竣工・点灯式
15.4	健康寿命延伸事業スタート
6	西会津中学校施設整備で「文部科学大臣奨励賞」を受賞
7	第1種電気通信事業者の免許を取得
8	住民基本台帳ネットワークサービス開始
10	「百歳への挑戦」パートIII開催
〃	喜多方・耶麻地方任意合併協議会に参加を決定
11	「市町村合併に関する住民説明会」始まる（町内32会場・翌年3月で全会場終了）
12	ケーブルテレビインターネットサービス開始
〃	高速バスストップ完成　高速バス乗り入れ開始
〃	個別排水処理事業（浄化槽）開始
6	立ち上がる農山漁村・全国の30選に選定される
7	新潟、福島豪雨　災害対策本部を設置（被害額5億7332千円）
〃	「市町村合併に関する住民アンケート調査」実施
8	町道芝草西林線「芝草橋」開通
9	県内の国道49号で初の道の駅「にしあいづ」開所
〃	交流物産館「よっせ」ランドオープン
〃	「自立宣言」を全会一致で可決
〃	野沢町内街路灯2期工事竣工・点灯式
〃	西会津国際芸術村、開村式
11	町制施行50周年記念式典を開催
〃	ミネラル栽培活性化特区が認定される
〃	「百歳への挑戦ミネラルっ娘」を商標登録
17.4	ケーブルテレビIP電話サービス開始
〃	第1回西会津国際芸術村音楽祭開催
〃	協働のまちづくり推進のため前三重県知事・早稲田大学大学院北川正恭教授の講演会を開催

西会津町立野沢小学校（旧黒沢小学校）校舎

5	放課後児童健全育成事業開始
6	西会津町まちづくり委員会発足（委員50名）
10	第1回まちづくり委員会開催　住民自治基本条例策定に向けた検討がスタート
7	沖繩県平良市（現宮古市）と友好都市締結
〃	町長選挙　山口博緒氏六選（無投票）
18.2	会津耶麻町村会設立
3	テレワークセンター完成
4	にしあいづ地域包括支援センター開設
5	協働のまちづくりプロジェクトチーム発足（町職員10名で組織）
6	地域再生計画・「百歳への挑戦」健康のまち再生計画が認定される
10	ふるさと・いきいき村づくり全国サミット西会津町大会開催
11	地域再生計画・ユビキタスICTのまち再生計画が認定される
12	ケーブルテレビ地上デジタル放送の試験放送を開始
19.4	笹川地区農業集落排水処理施設供用開始
〃	にしあいづ水・土・里（みどり）環境委員会設立
〃	農地・水・環境保全向上対策事業が始まる
5	ケーブルテレビ開局10周年記念式典
6	健康講演会・シンポジウムinにしあいづ開催
7	西会津高校活性化対策協議会設置
11	まちづくり委員会より「西会津町まちづくり基本条例案」が2年4ヵ月の検討を経て町長に報告される
12	「西会津町まちづくり基本条例」が町議会で議決される
20.3	雇用促進住宅西会津庁舎を取得（4月から入居開始）
〃	「西会津町まちづくり基本条例」施行
〃	ケーブルテレビ自主放送「さゆりチャンネル」のデジタル放送及びデータ放送サービスを開始
〃	町民バス野沢坂下線運行開始
6	総合計画策定プロジェクトチームを組織（町職員18名で組織）
〃	町民による総合計画検討会を設置（委員30名）
8	本町にゆかりのある佐藤政之選手が北京オリンピック・男子マラソンに出場
9	ケーブルテレビ高度化事業（ケーブル光ファイバー化）を開始
10	百歳への挑戦パートIV・町民大会を開催
11	健康な土づくり10周年記念大会を開催
21.1	テレワークセンター2号館を開設
3	名誉町民条例制定
〃	林道青坂芝倉線開通（平成7年度着工）
4	神奈川県横浜市と職員の人事交流を行う（平成21年度・1名　平成22～23年度・1名）
〃	野沢地区農業集落排水処理施設供用開始
〃	町消防支援隊発足（隊員242名）
5	町消防団が福島民報社賞「第57回民報金ばれん」受賞
6	旧野沢幼稚園跡地に「たかはし桜公園」オープン
7	町長選挙　薄友喜氏初当選
22.1	昭和60年から編さん作業が始まった「西会津町史」編さん事業完了　全13冊を刊行
3	西会津町イメージキャラクター「こゆりちゃん」誕生
4	町政懇談会開始
8	町役場内に無料職業紹介所を開設
10	野沢地区・上小島地区の住宅地にツキノグマが出没
11	野沢民芸企業協同組合の「首振り招福卯」が平成23年年賀切手に採用
12	記録的な豪雪　国道49号藤峠で300台以上が立ち往生
23.1	10年ぶりに豪雪対策本部を設置
2	統合小学校の名称「西会津小学校」に決定
3	東日本大震災発生　震度5弱を記録
〃	さゆり公園体育館に避難所を開設
6	集落支援員を設置（1名）　弥生・弥平四郎・大舟沢・荒木で活動開始
7	新潟・福島豪雨発生　徳沢で1戸床上浸水、橋屋・柴崎で災害対策本部設置（被害総額2億8,440万円）
10	国保診療所で医業分業を開始　薬は薬局で処方される
11	町内各小学校で閉校記念式典を開催
〃	町給食センターが文部科学大臣表彰を受賞
12	ご当地、こゆりちゃんナンバープレート交付開始
24.2	2年連続となる豪雪対策本部設置
〃	町農林産物加工研修所「こゆりちゃんキッチン」開所
4	旧野沢小学校校舎で西会津小学校が開校

〃	デマンドバス運行開始
〃	横浜市鶴見区と友好交流協定を締結
10	ケーブルテレビ高度化事業（町内全域光ファイバー化）完了
11	町民参加型健康まつり　第1回健康がいちばんinにしあいづを開催
〃	町公民館が文部科学大臣表彰（優良公民館表彰）を受賞
25.1	3年連続となる豪雪対策本部を設置
4	町名誉町民・新田正夫氏逝去（享年95歳）
6	地域おこし協力隊を配置　町内で地域おこし活動を開始
7	町長選挙　伊藤勝町長再選（町長選挙・町議会議員補欠選挙・参議院議員通常選挙のトリプル選挙となる）
8	公益社団法人福島県宅地建物取引業協会と協定締結　空き家バンク事業開始
10	旧奥川小学校を改修した「奥川みらい交流館」オープン
11	平成24年12月から始まった阿賀川災害対策緊急事業により橋屋地区に堤防が完成
26.2	埼玉県三郷市との災害時相互応援協定締結
4	町観光協会、大山まつり実行委員会、西会津元気グリーンツーリズム協議会の3団体を統合した「にしあいづ観光交流協会」設立
6	町消防団が福島民友新聞社表彰「民友旗」を受賞
9	西会津町民憲章制定
〃	道の駅にしあいづ・交流物産館よりっせオープン10周年記念式典を開催
11	にしあいづミネラル野菜普及会が「豊かなむらづくり顕彰・全国表彰」で農林水産大臣賞を受賞（追加）
〃	町制施行60周年記念式典を開催
27.4	西会津小学校　新校舎で授業開始
6	さゆり公園野球場で24年ぶりにプロ野球公式戦を開催
9	町交通安全員の会が「交通安全功労者交通対策本部長表彰」を受賞
28.1	子ども議会を初開催
2	西高魅力発信隊　町内事業者とともに車載ラスクを商品開発
4	元西会津町長　故山口博緒氏　町・山口家合同告別式（3/16逝去）
8	地域連携販売力強化施設「ミネラル野菜の家」オープン
〃	極入自治区で50年振りに金蔵寺・大聖歡喜天祭礼を開催
9	認定こども園の名称「西会津町こゆりこども園」に決定
10	町食生活改善推進員会が平成28年度栄誉関係功労者厚生労働大臣賞を受賞
11	東京・谷中霊園の「石川暎作碑」をふるさと自慢館脇に移設
29.4	西会津町こゆりこども園　開園
〃	野沢中央通りに野澤宿ポケットパーク　オープン
5	ケーブルテレビ開局20周年記念式典を開催
6	旧野沢幼稚園跡地に「たかはし桜公園」オープン
7	町長選挙　薄友喜氏初当選
30.1	西会津中学校　キャリア教育に関する文部科学大臣表彰を受賞
4	保育料無償化を実施
4	町道野沢柴崎線　新「橋屋橋」開通
6	埼玉県戸田市との教育交流提携締結
7	埼玉県川口市との相互交流に関する協定締結
8	24年ぶりに「湯水対策本部」を設置
9	千葉県市川市との相互交流に関する協定締結
10	定時定路線バス運行開始
11	沖繩県大宜味村との「結」交流協定締結
〃	